

# ほほえみ

01 10 14

テロ、空爆、炭そ菌、狂牛病…

気持ちが不安になることが続発しています。

渦中の人たちはどんなに苦しんでいることでしょう。

難病の子を持つ親も苦しみの連続です。しかし人間、

人生を苦しむのは昔からみな同じようです。

天下を取った徳川家康は

「人生は重荷を負うて、遠き道に行くがごとし」

楽道家と言われたゲーテでさえ

「結局、私の生活は苦痛と重荷にすぎなかった」

自由奔放に生きたといわれる女流作家林芙美子も

「花の命は短くて苦しきことのみ多かりき」

夏目漱石は

「人間は生きて苦しむ為の動物かもしれない」

芥川龍之介は「人生は地獄より地獄的である」

お釈迦さまも「人生は苦なり」と言っている。

人生に苦しみはつきもの、それが当たり前の中で、

いかに明るく楽しく生きるか、ということのよう

です。 みんな同じです。

## <第76回 ほほえみの会>

秋晴れ快晴の日、初参加の方2人と先生も含め9人が参加しました

▽ 5歳の男の子。扁桃腺の手術をするための血液検査で白血病がわかる。化学療法はしないですぐに骨髄移植をやることに。

本人は元気で実感がまるでわからない。思いがけない病気で親は状況の変化についていけない気分。

兄弟、家族のHLAが合わないとわかったときはショックだった。

が、臍帯血で合う型がありホッとした。

家からは車で通っていたが気持ちが動転すると運転が心配なので電車とバスで病院に通うことにした。

- ▽ 2歳8ヶ月の男の子。9ヶ月の時に神経芽腫とわかり東京の大学病院で手術。悪いものではなく心配はないといわれたが、その後今年に入ってから定期検査で骨に影が見つかる。  
大学病院に不信感を抱き、評判のいい病院を東京、埼玉、神奈川とまわってみて一番良い印象を受けた静岡のこども病院で治療を受けることに決める。  
実家が甲府にありそちらに引っ越してこども病院に通う。  
定期検査でたまたま異常が見つかったことや、こども病院と巡り会えたことを良かったと捉え頑張りたい。  
民間療法も話題になった。  
先生に話した上で、衛生面に気をつければやっても良いとのこと。  
・・・長い間病室においてカビが生えるケースもある。看護婦は手を出せない。また、漢方薬系は苦い薬が多く子供にストレスを与えることも多いので注意が必要とのこと。
- ▽ 5歳の女の子 2年前に寛解を迎えたが今年に入って再発。化学療法を始めたが骨髄移植をすることになるだろうか。  
最近臍帯血移植が多く行われていて成績もいいようだ。が、移植待ちの人が多い。移植がスムーズに進むように制度化してほしい。
- ▽ 6月に末梢血移植を受けた。9月に入って貧血、入院した。  
アメリカのテロの影響で取り寄せた薬が届かない。  
家が遠いので宿泊施設を充実してほしい。

次回は11月11日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail k1iked@nifty.com

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~hohoemi/>